

潮流を変える： プラスチック廃棄物がもたらす 危機への対応



SCジョンソン社が取り組んでいるサステナビリティの進捗状況を広く世界に公開し始めてから、27年目を迎えました。本レポートでは、特に明記されていない限り、2018年7月以降に行った活動を取り扱っています。また本レポートは、主にSCジョンソン社が長期にわたって展開してきたブランドと事業を対象としており、注釈がある場合を除き、最近買収した事業は対象にしていません。これら新たに買収した事業に関するデータおよび詳細情報は、今後のレポートで紹介します。本レポートに関するご質問は、グローバル総務部門、コミュニケーション部門、サステナビリティ部門担当シニアバイスプレジデントのケリー M. ゼムラウ（電話：262-260-2440）にお問い合わせください。または、オンライン：twitter.com/SCJohnsonもしくはfacebook.com/SCJohnsonからお問い合わせください。



会長兼CEO、
フィスク・ジョンソン

プラスチック 汚染の潮流を 変えるとき

今日、世界中の海にプラスチック廃棄物があふれているおぞましい光景をテレビの映像やニュースで目にしない日はありません。

ソーシャルメディアの普及によって、かつては実態が見えにくかった脅威が、具体的な高画質のイメージで伝えられています。体内に大量のプラスチックを飲み込んだ海洋生物、廃棄物に流れをせき止められた河川、海中にごみが投棄されている島々など、心がひどく痛むものばかりです。

そしてプラスチック廃棄物の問題は、これらの映像や画像が示す通り、厳しい現実と直面しています。専門家たちは、毎年800万トンものプラスチックが海洋に投棄されていると推定しています。つまり、1分ごとにダンブトラック1台分のプラスチックが海に捨てられていることになります。実際、プラスチック廃棄物の30パーセント以上が、ごみ収集システムによって回収されず、自然環境に投棄されていると報告されています。

開発途上国は、廃棄物の処理とリサイクルを行うインフラが不十分です。また、たとえインフラが整備されていても、北米のように、プラスチックのリサイクル率が10パーセント未満と、驚くほど低い数字にとどまっているのが現状です。

この危機に、何か明るい希望が見出せるとすれば、それは、世界中がプラスチック汚染に注目しているという点にほかなりません。そしてこの関心の高まりによって転機が訪れています。多くの政府が、対策を講じる計画の作成を開始したほか、消費者は行動を改める意志を表明し、SCジョンソンをはじめとする多くの企業が問題解決に向けた取り組みを強化しています。

SCジョンソンは、当社の取り組みの進捗状況を、本サステナビリティレポートでお知らせしてきました。本レポートが、解決に向けた進展が可能であることを示して、さらに多くの組織が、私たちと同じように積極的な取り組みに参加してくださることを願っています。

プラスチック廃棄物削減への 取り組みを加速

当社は、プラスチックパッケージのサステナビリティを向上させるため、これまで10年以上にわたって尽力してきましたが、2018年には、この取り組みをいっそう加速させるため、いくつかのステップを実行しました。

SCジョンソンのプラスチックパッケージは、すでに94パーセント以上がリサイクル可能、再利用可能、コンポスト可能であるだけでなく、当社のボトルには、長年にわたって、ポストコンシューマ・リサイクル (PCR) プラスチックを使用してきました。

そして現在、SCジョンソンでは、つめかえ用濃縮洗剤の拡大、PCRプラスチックの使用3倍増、そして海洋流入プラスチックから作ったボトルの使用を進めており、2025年までに、当社のプラスチックパッケージを100パーセント、リサイクル可能、再利用可能、コンポスト可能にすることを目指しています。

もちろん、この目標の達成は、たやすいものではありません。パッケージにPCRをより多く使用すれば、発色に影響を与え、店頭での存在感が弱まります。しかし、私たちはこれを、正しい行動を行なっている、そして何としてでも前進させている「名誉の印」と捉えます。

同様に、当社がつめかえ用濃縮洗剤の販売を開始してから10年近くになりますが、多くの消費者は、つめかえ製品に移行する準備ができていないことも判明しています。私たちは、プラスチック汚染に対する関心の高まりによって、多くの人々が、このプラスチック削減のオプションを選択するようになることを期待しています。



海に流出したプラスチックがもたらす汚染の惨状を自ら現場で確認する会長兼CEOのフィスク・ジョンソン。

パートナーシップを通じた進捗の実現

プラスチック廃棄物の問題は非常に複雑であり、すべてを解決できるソリューションはありません。産業界、政府、NGO、そして個人が、共に手を携えて取り組むことが不可欠です。

そのため当社は、世界の多くの地域で取り組みを進めることができるよう、これまでの数年間、長い時間を費やしてパートナーシップの構築に努めてきました。

例えば、多くの国ではリサイクル可能な廃棄物を管理するインフラが整備されていないため、当社はPlastic Bankとパートナー提携を行い、インドネシアを手始めに、リサイクルセンターを建設しました。これによって、プラスチックが海に流出するのを防ぎ、現地の多くの家庭に経済的な機会をもたらすために貢献しています。

米国においては、引き続き、買い物袋や食品パッケージ、Ziploc®ブランドのバッグなど、プラスチックフィルムをリサイクル対象アイテムに含めることにより、カーブサイド収集（道路に出された家庭ごみの収集）を通じたリサイクルの進化を先導しています。SCジョンソンのチームは、これまで、自治体の担当者や公共事業担当部局、リサイクル事業者との会合を重ね、最初の実証試験がまもなく行われることを期待しています。

エレン・マッカーサー財団のグローバルパートナーとして、当社は、地球レベルで循環型経済イニシアチブの推進を支援しています。この支援はまず、新プラスチック経済グローバル・コミットメントに署名し、プラスチック汚染の根本原因の解決に取り組むことから開始しています。

さらに、コンサベーション・インターナショナルとの長期にわたるパートナーシップによって、私は、プラスチック汚染の除去について真の計測可能な進歩を実現している、政府およびNGOによる様々なプロジェクトを実際に訪れて見学することができました。

プラスチック廃棄物の潮流を変える

これらいずれの課題にも簡単なソリューションはなく、解決のためには、あらゆるレベルにおける行動が必要です。しかし、希望の兆しがあります。

この1年間、私は、インドネシアからパナマ、リベリアからフィリピンに至るまで、世界各地で働く人々に会いました。そして私は、彼らにこの問題に対する高い関心と解決への意志、そしてソリューションを見出す情熱を見て取ることができました。

「これらは私たちが共有する取り組みである」と言うとき、私はこれが、SCジョンソンの全社員を代表して話していることを認識しています。今こそ、プラスチック廃棄物の潮流を変えるときです。SCジョンソンは、ソリューションの一端を担うべく、最大限の努力を行っています。

共に取り組むことで、真の前進を勝ち取ることができると信じています。

Fisk Johnson

会長兼CEO、H・フィスク・ジョンソン

行動を促すために

SCジョンソンはグローバル企業であるため、会長兼CEOのフィスク・ジョンソンは頻繁に世界各地に出かけます。このことは、海洋プラスチックに関する対話に、彼が直接体験して得た見解を伝える機会があることを意味します。フィスクは、自身のソーシャルメディアで、インドネシア、フィリピン、リベリア、パナマのほか、その他の地域で撮影したビデオを掲載しています。詳細を16ページでお読みいただき、フィスクをTwitter (@hfiskjohnson) でフォローしてください。





SCジョンソン社グローバル
総務部門、コミュニケーション
部門、サステナビリティ部
門担当シニアバイスプレジ
デントのケリー・ゼムラウ

人と地球のために約束して、約束を果たす

私がSCジョンソン社の一員であることを誇りに思う理由の1つは、当社が、消費者、パートナー、コミュニティ、そして社会から信頼を勝ち得るために取り組んでいるという点です。なぜなら、信頼は業績を向上させるだけでなく、SCジョンソンの社員とリーダーシップが正しいことを実行したいと希求する姿勢が純粋に示されているからです。

これは、Greenlist™ 成分選択プログラムを支える確固とした科学をはじめとして、プラスチック問題や森林伐採問題への対処から、当社が行っている蚊が媒介する病気の予防対策などの慈善活動に至るまで、非常に多くの取り組みに生かされています。

私たちは目標を高く掲げ、さらなる前進を追求します。なぜなら、これは非常に重要だと固く信じているからです。

大きな前進を遂げた1年

この1年間に、当社は、プラスチック廃棄物への取り組みを象徴するいくつかの画期的な成果を上げました。1月には、世界中で当社製品の成分に関する情報を公開するという、当社が約10年前に行った透明性に関する約束を実現できました。

当社は、成分に関する情報公開を率先して行っており、その過程で果たした先駆的な行動を、誇らしく思います。そして、香料開示におけるリーダーシップ、アレルゲン開示におけるリーダーシップ、地域的な多様性におけるリーダーシップを発揮して、世界的な規模で透

明性を実現することにおいて、素晴らしい成功を達成できました。これは当社の数多くの献身的な社員による努力の賜物であり、あらゆる地域の消費者に恩恵をもたらしました。

他にも次のような例が挙げられます。詳しい内容は10ページに記載しましたが、当社はインドネシアのバリ島に8か所のPlastic Bankリサイクルセンターを設け、プラスチックのリサイクルをいっそう推し進めると同時に、現地の家庭に経済的な機会を創出しています。

この重要な目的に向けて、当社はさらに多くの取り組みを行い、世界中の人々に関わる機会を得たいと考えています。そこで当社は、GreenBiz 2019に参加する機会を利用して、9か所目のリサイクルセンター設立と引き換えに、ソーシャルメディアのユーザーが海洋プラスチックの削減を支援する様子を共有していただくように要請しました。

反応は驚くべきものでした。わずか数日の間に、1億5千万人以上もの人々と関わり、それによって約束を守って、新たなリサイクルセンターを築けるようになったことに感動しました。

将来に向けた約束

SCジョンソンの私たちは、完璧ではありません。そして、当然ながらすべての答えを持っているわけではありません。しかし、海洋プラスチックに対する当社CEOのリーダーシップによって、安全で高品質の製品を作るためのステップを確実に実践し、正しい行動をとる努力を毎日行っています。

私たちは現実を理解することに努めています。そして、必要とされる場所で行動し、約束を果たし、当社の価値観を追求します。そしてこれらすべてを実践することにより、より良い世界の構築に貢献することを願っています。これが、SCジョンソンが守ることのできる最大の約束です。



SCジョンソンの会長兼CEOフィスク・ジョンソンは、海洋プラスチック問題に対する意識向上を目指す当社のソーシャルメディアによる挑戦を支援するため、GreenBiz 2019のSCジョンソンのブースで自ら署名を行い、決意を表明しました。

世界的危機へのソリューションを追求

SCジョンソンには、人と地球を守るために大胆な意思決定を行ってきた誇るべき実績があります。当社は2018年、危機的な状況を深めていくプラスチック汚染に対処するため、一連の取り組みを発表しました...

2025年までに、SCジョンソンのプラスチックパッケージを100パーセント、リサイクル可能、再利用可能、コンポスト可能にする。現在、当社のプラスチックパッケージの94パーセントがリサイクル可能、再利用可能、コンポスト可能なように設計されています。

2025年までに、SCジョンソンのパッケージに使用するポストコンシューマ・リサイクル (PCR) プラスチック材料の量を3倍に増やす。この一環として、当社は北米および欧州のボトルに使用するPCRプラスチックの割合を、40パーセントにまで引き上げます。

2025年までに、SCジョンソン製品のつめかえ用濃縮洗剤の種類を拡大する。当社のスプレーボトルは、10,000回スプレーできるように設計されており、数十回のつめかえと再利用が可能です。



業界およびその他の組織と協力し、プラスチックの循環型経済モデルを支持する。当社は、エレン・マッカーサー財団、Plastic Bank、コンサベーション・インターナショナルなどのグループと、パートナーシップを構築して取り組んでいます。

製品から、引き続き余分なプラスチックを取り除く。当社は、絶えず、不必要なパッケージを削除するデザインに取り組んでいます。2018/19年度には、基本的パッケージから170万キログラム以上のプラスチックを取り除きました。

プラスチックフィルムの家庭でのリサイクルを支持する。当社は米国において、Ziploc® ブランドのバッグなど、柔軟性の高いプラスチックフィルムのリサイクルを、カーブサイド収集を通じて実現する努力を続けており、実証実験がまもなく行われます。

当社の取り組みについてお読みください >



エレン・マッカーサー財団との画期的な グローバルパートナーシップ

SCジョンソンは、エレン・マッカーサー財団と協力して、海洋からプラスチックを取り除き、新たな循環型経済イノベーションを奨励する活動に取り組んでいます。

専門家たちは、海洋では、2050年までに魚よりもプラスチックの方が多くなると予測しています。長期にわたる環境保護活動のリー

当社の先導的な事例

SCジョンソンは、2018年の新プラスチック経済グローバル・コミットメントの設立者に名を連ねているほか、2019年にはエレン・マッカーサー財団のグローバルパートナーになりました。

ダーとして、SCジョンソンは、企業、政府、NGO、そして個人が共に手を携え、遅きに失することがないように、この問題の解決に取り組むことが不可欠であると信じています。

そのため、インドネシアで開催された2018年アワ・オーシャン・カンファレンスにおいて、会長兼CEOのフィスク・ジョンソンは、エレン・マッカーサー財団の創立者デйм エレン・マッカーサーと国連環境計画事務局長エリック・ソルハイムと共に「新プラスチック経済グローバル・コミットメント」に署名しました。

過剰包装を削除し、パッケージをさらにリサイクル可能、再利用可能、コンポスト可能にしていくなど、プラスチック汚染の根本原因の解決を目指すこの取り組みには、400以上もの組織が署名しています。SCジョンソンはまた、当社製品に関連したプラスチック廃棄

物削減への取り組みについても、その決意を公にしています。

複数年にわたるパートナーシップでソリューションを加速

2019年に当社は、エレン・マッカーサー財団の10番目のグローバル・パートナーとなり、今後、大規模な形で市場主導の循環型経済へ向けたイニシアチブを推進していきます。Google、フィリップス、ユニリーバなども、財団のパートナーに加わりました。

SCジョンソンの会長兼CEOのフィスク・ジョンソンは、署名に際し、「プラスチック汚染は非常に大きな問題であり、それを解決するには、企業、政府、消費者、そして市民社会が協力して取り組む必要があります」と述べています。

この複数年にわたるパートナーシップは、SCジョンソンの、製品のサステナビリティ改善へ向けた10年に及ぶ長い歩みの上に築かれたものです。この取り組みの一環として、当社は長年にわたり、循環性を妨げる障害が何であるかを理解し、それを克服するためのソリューションを見つけるために、業界の専門家たちと協力してきました。

新プラスチック経済グローバル・コミットメント

2025年までに、問題となる、もしくは不要なプラスチックパッケージを廃絶するための行動を起こす。

2025年までに、該当する場合は、単回使用モデルから再使用モデルに移行するための行動を起こす。

2025年までに、プラスチックパッケージを100%リサイクル可能、再利用可能、コンポスト可能にする。

2025年までに、プラスチックパッケージに使われる再生材料を大幅に増加する。

「ファミリーカンパニーとしての豊かな歴史と、透明性と製品の循環性における先駆的な取り組みの数々を基盤に持つSCジョンソンは、循環型経済を原則としたグローバルシステムの再設計のため、そしてプラスチック汚染などの深刻な環境問題の解決のために、リーダーとしての役割を果たしています。私たちはSCジョンソンをグローバル・パートナーとして歓迎し、今後、力を合わせて、長期的に機能する経済を推進していきたいと思

います」

– エレン・マッカーサー財団創立者のデイム エレン・マッカーサー



会長兼CEOのフィスク・ジョンソン(左)。2018年にインドネシアのバリ島で開催された「2018年アワ・オーシャン・カンファレンス」において「新プラスチック経済グローバル・コミットメント」に署名した後、チリの外務大臣ロベルト・アンペロ・エスピノーザ(中央)と、デイム エレン・マッカーサー(右)と共に舞台の上で。

(グラハム・クロウチ/AP SCジョンソン用写真)



前進にはパートナーシップが不可欠です。プラスチック汚染に終止符を打つには、企業、政府、NGO、そして個人が手を携えて協力することから始める必要があります。

再利用の流れを打ち立てる： プラスチック廃棄物の大幅な削減に貢献

つめかえ用濃縮洗剤ボトルを利用することは小さな選択ですが、埋め立て処分場に運ばれるプラスチック廃棄物の削減に大きなインパクトをもたらします。

世界中で毎日、1分間あたり100万本ものプラスチックボトルが購入されていることが報告されています。もしそれらのボトルが使い捨てであり、さらにリサイクルもされないとしたら、計り知れない量のプラスチック廃棄物が生まれることになります。

だからこそSCジョンソンは、ほぼ10年前に**Windex®** のつめかえ用濃縮パッケージの販売をウェブサイトで開始したのを皮切りに、長期にわたって、つめかえ用濃縮洗剤の販売で先頭を走ってきました。この間、簡単にリサイクル可能なミニボトルへと変更し、それらが利用可能なブランドのラインアップも**Scrubbing Bubbles®** や**Mr Muscle®**、その他の製品へと拡大しました。

2019年には、次なるステップへと踏み出し、Amazon.comやその他のオンラインショッピングサイトで、つめかえ用濃縮洗剤の販売を開始。これにより、より多くの人々が利用できるようになりました。現在では国際展開を進め、カナダ、メキシコ、英国、中国、そして日本でもオンラインで濃縮製品の購入が可能です。

当社の先導的な事例

パッケージの再利用を促進するという当社の取り組みを実践するため、SCジョンソンは2019年、複数の国においてつめかえ用濃縮製品のオプションを拡大しました。



再利用を促すデザインで、つめかえによる成果を促進

SCジョンソンのスプレーボトルは、10,000回のスプレーが可能です。

長く使用できるデザインなので、当社のボトルは何十回も再利用できます。

濃縮洗剤のつめかえは、廃棄物を80パーセント近く削減します。

これにより、数百万ポンドものプラスチックが廃棄物として廃棄されなくなります。

濃縮製品の利点

SCジョンソンのつめかえ用濃縮洗剤は、注ぎやすい小さなボトルで提供しており、牛乳容器と同様、一般的なリサイクルパッケージングに使用されているHDPEで作られています。スプレーボトルに、ボトル1本分の濃縮洗剤と水道水を入れて混ぜるだけで使用できます。ラベルが貼付されているので、後から使う際にも、ボトルの中身がひと目で分かります。

当社のスプレーボトルは、10,000回以上スプレーできるように設計されており、数十回のつめかえと再利用が可能です。そして何よりも重要なことは、新しいスプレーボトルを購入する代わりに、フルサイズのボトルにつめかえることで、プラスチック廃棄物を80パーセント近くも削減できます。

これを長期間持続させれば、このような寿命の長いボトルの再利用によって、数百万ポンドものプラスチックごみが廃棄物となるのを止められます。

SCジョンソンのプラスチック削減の取り組みの一環として、私たちは、2025年までにつめかえ用濃縮洗剤のオプションを提供する当社製品の拡大に向けて準備を進めています。当社は、消費者がパッケージを再利用して廃棄物を削減できるよう、つめかえ製品の種類を引き続き充実させていきます。



会長兼CEOのフィスク・ジョンソンが手にしているのは、つめかえ用濃縮洗剤の一例です。これらの利用は廃棄物を削減する手軽な方法の一つです。再利用が可能なボトルは、使い捨て製品よりもプラスチックの寿命を延ばし、廃棄物となるプラスチックが減ります。

「プラスチック廃棄物は、ますます大きな環境問題になっています。濃縮ボトルを使用するたびに、使用したプラスチックの廃棄物が80パーセント近く減少するので、もっと多くの人々がつめかえ用濃縮製品を試すようになることを願っています」

- SCジョンソン会長兼CEO、フィスク・ジョンソン



複数回使用できるようにプラスチック製品をデザインすることで、企業は循環型経済をいっそう振興させることができ、廃棄物の削減を推進できます。



革新的なパートナーシップによってプラスチック汚染を低減させ、貧困問題に対処

SCジョンソンとPlastic Bankは、貧困にあえぐコミュニティに新たな経済的機会を創出し、プラスチックの河川への流出防止に努めています。

プラスチックが海洋やその他の河川などに流出する大きな理由の一つとして、世界の多くのコミュニティでは廃棄物を回収する正式

なインフラが整備されておらず、リサイクル率も非常に低いことが挙げられます。

当社の先導的な事例

SCジョンソンは、9か所のPlastic Bankリサイクルセンターをインドネシアに開設し、さらに拡張する計画です。河川などにプラスチックが流出する前に収集することで、回収者は公正な報酬を得ることができます。

住民はごみを処分する方策がないため、道路や路地、その他の場所にごみが堆積し、それらが雨によって流されるのです。場所によっては、家に置いておけないごみが日常的に川の中に捨てられています。

SCジョンソンは、まさにこの問題が、当社が解決に取り組むべき分野の1つであることを認識しています。もちろん、一企業が公共のインフラにとって代わることはできませんが、当社はPlastic Bankとのパートナーシップを通じて、問題の解決にインパクトを与え始めています。

回収の機会を創出

2018年10月、当社はPlastic Bankとのパートナーシップを始動させました。Plastic Bankは、海洋プラスチックがもたらす世界的な危機の低減に向けて、指導的役割を果たしている組織の一つです。当社はPlastic Bankと共に、プラスチック汚染と貧困のレベルが高いインドネシアのコミュニティに、9か所のリサイクルセンターを開設しました。

住民は、プラスチックを河川に流れ込む前に集めて回収センターに持ち込むことで、生活に必要な品物やサービスの購入に使用できるデジタルトークンと交換します。

ブロックチェーンを活用

Plastic Bankプログラムでプラスチックを回収する人は、ブロックチェーン技術で構築されたアプリを使用します。これによって、回収したプラスチックへの対価を、安全かつ信頼できる方法で受け取ることができます。これは本質的にデジタル銀行口座です。回収者のなかには、生まれて初めて銀行口座を持ったという人も珍しくありません。

支払いはデジタルトークンの形で行われるため、回収者は、紛失や盗難のリスクなしに対価を受け取り、使用することができます。インドネシアでは、約2,800万人もの人々が貧困レベルを下回る生活水準に置かれており、彼らは、こうした規模のプログラムから非常に大きな利益を得ることができます。

なぜインドネシアから？

世界最高レベルの海洋生物多様性を誇ります。

高度のプラスチック汚染によって、海洋生物多様性がリスクに曝されています。

政府は、2025年までに海洋廃棄物を70%削減する取り組みを進めています。

SCジョンソンが数十年にわたって事業を行っている国です。



SCジョンソンとPlastic Bankによってインドネシアのバリ島に開設されたリサイクルセンターで、プラスチック廃棄物を回収するNyoman Dartiさん。インドネシアは海洋プラスチックの量とその他の海洋汚染を減らすために、年間最大10億ドルの予算を充てることを誓約しました。

「目標は、プラスチック廃棄量を最小限に抑え、同時に貧困問題を解決するために、リサイクルのインフラを構築することです。これは極めて深刻な環境問題です。企業、政府、NGO、市民社会が一丸となって問題解決に取り組む必要があります」

- SCジョンソン会長兼CEO、フィスク・ジョンソン



持続的なリサイクルを可能にするインフラの構築と、廃棄物の回収者にインセンティブを与えることで、当社は海洋プラスチック問題への取り組みを拡大しています。



「SCジョンソンは、インドネシアでこのようなプログラムを大規模に展開する最初のCPG会社です。これにより、貧困水準を下回る生活を送る地元の人々を含め、広範な社会経済層の人々に利益がもたらされるでしょう」

– Plastic Bankの創立者兼CEO、デービッド・カッツ氏

各センターは、1年間に最低100トンのプラスチックを取り扱うことができ、将来的にさらに拡張する見込みです。この取り組みの結果、リサイクルセンターごとに、数百人の現地の回収者に対して経済的機会を提供することが期待されています。

SCジョンソンの製品に Social Plastic® を活用

このプログラムの一環として、SCジョンソンでは、Plastic Bankのリサイクルセンターから原料を調達した**Social Plastic®**の使用を2020年に開始します。その手始めとなるのが**Social Plastic®**を100%使用した**Windex®** ボトルの投入です。

ソーシャル・プラスチックは、市場に出回っているどのプラスチックとも違い、ハイチ、フィリピン、インドネシアのPlastic Bankによってリサイクルされた海洋流入プラスチックが原料に含まれています。これは環境保護に役立つだけでなく、貧困水準を下回る生活を送っている人々にも恩恵をもたらします。ボトル1本1本が、プログラム参加者の経済的機会です。

今後も長期間にわたって、SCジョンソンは、**Social Plastic®**の使用拡大と、Plastic Bankとのパートナーシップの強化を推進していきたいと考えています。中国、インドネシア、フィリピン、ベトナム、タイの5か国で、海洋に流出するプラスチック廃棄物の55パーセント以上を占めています。これらの国ではまた、このようなプログラムによって生み出される経済的機会によって、数百万もの家庭がその利益を享受することができます。

PLASTIC BANKとのパートナーシップによる協働のしくみ

Plastic Bankとのパートナーシップによって以下のようなプラスチックの循環型経済を支援しています。

- 1 リサイクルセンターは、インフラが整備されていないコミュニティにインフラを提供します。
- 2 放置していれば地元の河川などに流出するプラスチックを住民が回収します。
- 3 回収したプラスチックをPlastic Bankのセンターに持ち込むか、移動型回収車が近在を訪れた際に持ち込みます。
- 4 回収されたプラスチックは確認を受け、種類と重量に応じて市場相場に基づいた報酬が回収者に支払われます。
- 5 回収者への支払いは、調理用燃料や電気などの物品やサービスの購入に使用できるデジタルトークンによって行われます。
- 6 回収されたプラスチックは、**Social Plastic®** へとリサイクルされます。そして、SCジョンソンをはじめ、マックス&スペンサーやヘンケルなどの企業に売却され、新たな製品の製造に使用されます。



移動型回収車を運転するSCジョンソンの会長兼CEOフィスク・ジョンソン(左)とPlastic BankのCEOデービッド・カッツ氏。SCジョンソンによる初めてのリサイクルセンターが開設したとき、センターを訪れた地域の住民から、自分の住むエリアでもプログラムを利用したいという声が多く聞かれました。そのニーズに応えるため、移動型回収車が開発されました。フードトラックに似た作りの回収車が様々な日に各居住エリアを訪れます。これによって、より多くの人々に報酬を得る機会を提供して、海洋に流出するプラスチックをさらに減らせるようになりました。

他者の行動を促す

2019年2月、GreenBiz 2019において、SCジョンソンの会長兼CEOフィスク・ジョンソンは、Plastic BankのCEOデービッド・カッツ氏と共にプレゼンテーションを行いました。2人は共に、インドネシアでのパートナーシップについて取り上げ、他の組織も行動を起こす必要があることを訴えました。

そして、フィスク・ジョンソンは、「私は、この問題に関する認識が高まりつつある現在の勢いを継続させたいと思っています。なぜなら、それが解決へとつながるからです。世界でこの問題に関する注目が高まっていますが、まだようやく転機を迎えたばかりです。企業はこの変化を進んで活用し、今後もこの問題に対する関心を高めてゆく機会があります」



ワヤンをご紹介します

ワヤンは、インドネシアのバリ島に住むプラスチックの回収者です。

彼がプラスチックの回収を始めてから、19年になります。しかしほとんどの場合、回収した量や、プラスチックの種類別の価値について、知るすべはありませんでした。

また、回収したプラスチックの販売は、不安定でした。ワヤンは、回収物を地元のごみ収集業者の仲介人に手渡していましたが、作業への対価が支払われることはあったものの、回収したプラスチックだけを取られて、公正な報酬が支払われないこともよくありました。

しかし現在は、Plastic Bankのプログラムを利用しているため、取引がデジタル化されました。正確な報酬額とその詳細が分かるようになりました。ワヤンは生計を立てるために、他の仕事をする必要がなくなりました。そして、生まれて初めて、収入を蓄えるデジタル銀行口座を持つことができました。

ポストコンシューマ・リサイクル材料を活用した循環型経済の推進

当社では現在、循環型経済の振興と廃棄物の削減に貢献するため、パッケージングにおけるポストコンシューマ・リサイクルプラスチック材料の使用量を、3倍に増やす努力を重ねています。

埋め立て処分場や河川などに廃棄されるプラスチックを減らし続けるうえで、最も重要なことは、使用するプラスチックの量を最初から減らすことです。使用するプラスチックにポストコンシューマ・リサイクル (PCR) プラスチック材料を含めることで、新規プラスチック

の使用量を削減することも大変重要です。

SCジョンソンは、過剰パッケージをなくすデザインを採用し、リサイクルされた材料の使用を増やすことで、この戦略を長年にわたって実践してきました。2018/19年度には、基本的パッケージから170万キログラムものプラスチックを取り除いています。当社の材料の使用状況については、31ページをご覧ください。

当社の先導的な事例

2019年に市場に投入された100%海洋プラスチックを使用したボトルと、まもなく製品化される100%Social Plastic® から作られたボトルによって、SCジョンソンは、新規プラスチックの使用量を削減しています。

このような進歩を実現させるには、ゆるぎない視点を持ち続けることが必要です。例えば、2007年に行った軽量Windex® ボトルのプロジェクトでは、消費者による廃棄物を年間約50万キログラム削減しました。また2015年には、これらのボトルを100パーセントPCRプラスチック製に移行し、プラスチック廃棄物を年間200万キログラム以上、削減しています。

2018/19会計年度の終わりまでに、当社の全世界におけるすべて



SCジョンソンのパッケージへのリサイクル材料の使用

2015年から、PCRを100%使用したボトルをWindex®で使用しています。

2019年、初の100%再生海洋プラスチックを使ったボトルを市場に投入しました。

2025年までに、PCRプラスチックの使用量を3倍に増やす予定です。

北米およびヨーロッパのボトル全体に対するPCRの使用率を40%に高める予定です。

のプラスチックボトルに対するPCRの使用量は、平均11パーセントに達しました。

当社のプラスチック・コミットメントでは、2025年までに、当社のパッケージへのPCRの使用量を3倍に増やすことを掲げています。



再生プラスチック材料の活用は正しい行動ですが、コストも伴います。現時点では、再生材料はより高価で、再生材料で作ったパッケージは魅力に欠けるのが実情です。当社のYouTubeページで、再生プラスチック材料が持つ機会と課題について、会長兼CEOのフィスク・ジョンソンがオーシャンワイズのリサーチ統括責任者であるピーター・S・ロス博士と行った対談をご覧ください。

「海中にあるプラスチックの屑は5兆個を超えるとも言われ、状況はますます深刻になるばかりです。当社は、海の汚染と闘う解決策を提示するだけでなく、実際に行動を起こして対策を実現します。再生海洋プラスチックから作ったWindex® ボトルは、そのような多くの取り組みの一例に過ぎません」

- SCジョンソン会長兼CEO、フィスク・ジョンソン

この結果、北米およびヨーロッパにおけるボトルのPCR使用率は、全体で40パーセントに上昇することになります。

PCRプラスチックの使用を推進するイノベーション

2019年、当社は、効果的な正式のごみ収集システムを持たない国々の海洋または水域から30マイル以内の沿岸部から回収したプラスチック廃棄物を使って、初めてのボトルを実用化しました。30マイル以内の沿岸部は、プラスチックが海洋に流出するリスクが高いエリアです。Windex® Vinegar Ocean Plasticボトルがその初めてのボトルで、通常販売品として、TargetやWalmartをはじめとする北米の小売店で販売されています。この新たなパッケージを使用した製品は成功を収めているだけでなく、リサイクルされたプラスチックに秘められた価値について重要な会話を促進するうえでも役立ちます。

来年、SCジョンソンは、**Social Plastic®** を100パーセント使用した初のボトルを投入する予定です。このボトルには、Plastic Bankから調達した、海洋流入プラスチックからリサイクルした材料が100パーセント使われることになります。詳しい内容は12ページをお読みください。



SCジョンソンのWindex® Vinegar Ocean Plasticボトルは、主要な家庭用洗剤ブランドにおいて、業界初の100%再生海洋プラスチックから作ったパッケージです。



プラスチック廃棄物による 世界的な危機に光を当てる

SCジョンソンは、プラスチック汚染の問題解決に向けた現実的なソリューションを共に実践するため、企業、政府、NGO、そして個人に行動を起こすよう、呼びかけを行っています。

会長兼CEOのフィスク・ジョンソンが何度も述べてきたように、海洋プラスチックの問題は1つの組織や企業によって生み出された問題ではなく、また単独で解決できるものではありません。企業、政

府、NGO、そして個人による、膨大な努力とイノベーションが必要です。

昨年1年間を通してフィスクは、ソーシャルメディアや講演の機会を活用して、この拡大する危機と潜在的なソリューションを認識してもらうべく、意識の向上に努めてきました。

彼は、世界中の科学者や海洋生物学者、環境団体のほか、プラスチック汚染にあえぐコミュニティの人々と交流してきました。

ダイバーとして長い経験を有するフィスクは、海洋プラスチックを実際に自分の目で見ており、海洋プラスチックが海洋生物と海洋生態系に与える破壊的な影響について、すべての人が知る必要があると信じています。

当社の先導的な事例

SCジョンソンの会長兼CEO、フィスク・ジョンソンは、海洋プラスチック問題の実情と、そのソリューションに向けた協力の必要性について、世界的な関心の喚起に尽力しています。



SCジョンソンのブランド自体も、Windex® Vinegar Ocean Plasticボトルに代表されるように、問題意識の向上に貢献しています（15をご覧ください）。このボトルは、ブルーミングデールズのニューヨーク本店のショーウィンドウを飾りました。このウィンドウディスプレイと再生プラスチック材で作られた海洋生物は数百万の人々の目に触れ、海をきれいにする革新的ソリューションの重要性を、一般家庭に伝えるきっかけとなりました。

フィスクは、プラスチック廃棄物が海岸に溜まっている場所を実際に訪れ、それがどのように河川から海洋に流出するかを確かめて、この問題への対応策を共有してきました。リベリアを訪問した際は、問題解決に取り組む若者たちの熱意に触発されました。またフィリピンとパナマでは、廃棄物問題の解決に向けた革新的なプログラムを視察しました。

既知の問題と新たな問題の両方を把握

海洋プラスチックは、はるか以前から私たちの海に流出していました。世界中の国々の河川や水域で海洋プラスチックの証拠が突きつけられるなか、ときに最も小さなものが、最大の環境問題を引き起こす原因になります。

この点を踏まえて、フィスクは今年、世界的な環境保護団体であるオーシャンワイズ保護協会（オーシャンワイズ）と膝を交えることにしました。環境毒物学者であり、高名な海洋汚染専門家でもあるピーター・S・ロス博士と、マイクロプラスチックの広汎性とその海洋生態系の健全性への影響について、フィスクは対談を行いました。

ロス博士によれば、排水処理システムによって約95～97パーセントの固形廃棄物を除去できるものの、残りの廃棄物は処理水中に残存し、海に流出してしまいます。排水処理システムをくぐり抜けるプラスチック廃棄物のほとんどは、衣服や家庭での洗濯に由来する合成樹脂繊維です。これらのマイクロプラスチックは目に見えないことが多く、自然の生態系を破壊する汚染の大きな原因となっています。



プラスチックは、廃棄物収集の欠如や不十分な水のろ過など、様々な理由から海洋に流出します。



数あるプラスチック汚染の現場の中でも、会長兼CEOのフィスク・ジョンソンが訪れたこの場所は、特別でした。単にプラスチック廃棄物のごみ捨て場の前に立っているように見えますが、実は、これはプラスチックがあふれかえる川の前なのです。まさに惨憺たる光景です。彼が撮影したこのビデオは、300万回以上も閲覧されました。

「私は、この問題に関する認識が高まりつつある現在の勢いを継続させたいと思っています。なぜなら、それが解決へとつながるからです。世界でこの問題に関する注目が高まっていますが、まだようやく転機を迎えただけです。企業はこの変化を進んで活用し、今後もこの問題に対する関心を高めてゆく機会があります」

- SCジョンソン会長兼CEO、フィスク・ジョンソン

海洋プラスチックとその影響

毎年800万トンのプラスチックが海洋に流出しています。¹

5兆2,500億個のかけらが海洋に拡散しています。²

海洋に流出するプラスチック廃棄物の55%が、5か国で占められています。³

排水処理システムをくぐり抜けるマイクロプラスチックのほとんどは、衣服に由来する合成樹脂繊維です。⁴

当社の業界を進化させる取り組み

SCジョンソンのプラスチック・コミットメントの一つに、カーブサイド収集を通じたプラスチックフィルムのリサイクルにおいて、先導的な役割を果たしていることが挙げられます。これは、食料品のパッケージやZiploc® ブランドのバッグなど、最も一般的に使用されているパッケージと保存容器に用いられている材料です。にもかかわらず、米国におけるリサイクル率は低い水準でとどまっています。この大きな原因は、大半のリサイクル用ごみ容器での収集からプラスチックフィルムが除外されているためです。

米国では現在、約18,000超の商業店舗でプラスチックフィルムのリサイクルが可能ですが、それらは通常、市町村のリサイクル施設では処理されていません。プラスチックフィルムのほとんどはリサイクルが可能なのですが、誤った概念によって、リサイクルが進んでいないのです。そこでSCジョンソンは、事実を知らせる取り組みを行っています。

こういった誤った概念は、カーブサイド収集を通じたプラスチックフィルムのリサイクルをより多くのコミュニティが採用することで、変えていくこともできます。当社では、これまで数年にわたって、

自治体の職員や公共事業の部局、資源回復施設などに積極的に働きかけて、プラスチックフィルムのリサイクルオプションを拡大する利点と再生材料の価値を広く訴えてきました。

その結果、いくつかのコミュニティから関心が寄せられ、2019年の初の実証試験に向けて、最終的な詰め作業が行われています。当社は、この種のリサイクルの拡大を支援することで、プラスチックフィルムの循環型経済が進んでいるヨーロッパ諸国の現状に、米国が追いつくことを願っています。

ソーシャルメディアの活用

プラスチック汚染は、あらゆる人に影響を与えます。フィスクは、自身のソーシャルメディアのチャンネルを通じて、この話題を数百万もの人々に伝えています。Plastic Bankの回収センターの視察の様子から、マイクロプラスチックにまつわる一問一答に至るまで、フィスクは全世界の人々とつながり、関わり合い、対話を生み出しています。

また、ソーシャルメディアを利用して、森林保護や蚊が媒介する病気の予防など、SCジョンソンが行っている社会や環境にまつわるその他の支援活動についても語っています。



会長兼CEOのフィスク・ジョンソンは、地球の環境を汚染するプラスチックに注目してもらうため、自身がダイビングする海からインパクトのある画像をソーシャルメディアで共有しています。

¹ <https://www.ellenmacarthurfoundation.org/publications/the-new-plastics-economy-rethinking-the-future-of-plastics>

² <https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0111913>

³ <https://oceanconservancy.org/wp-content/uploads/2017/04/full-report-stemming-the.pdf>

⁴ オーシャンワイズの研究結果による

人類と地球のために 先駆的役割を継続

当社では昨年、プラスチック・コミットメントを優先事項の一つに掲げてきましたが、SCジョンソンのすべての社員は、このほかにも、環境と社会の進歩に向けた取り組みを着実に実行し続けています。それらの実例をご紹介します...



世界で最も弱い立場にある 家庭を支援

当社は、世界で最貧の状態にある40億人の人々が、マラリアやデング熱など、蚊が媒介する病気から身を守れるように支援しています。

蚊が媒介する病気は、個人とコミュニティに壊滅的な影響をもたらしかねません。これらの病気は予防が可能です。

家庭用虫よけ製品を販売する世界的大企業として、当社では、家族が自分たちの身を守れるよう支援するとともに、蚊が媒介する病気の予防法について啓蒙活動を行っています。当社は、とりわけ最も高いリスクを負う家族に焦点を当てています。すなわち、1日当たり数ドル以下の収入しかなく、マラリアやデング熱などが流行しているエリアに住む人々です。

世界保健機関によると、世界人口の約半分がデング熱の危険に曝されています。また、マラリアによって、2分に1人のペースで子どもたちが命を落としています。





現地の家族と共に過ごすことで、BOPチームは、毎日の生活に安い費用で取り入れられるソリューションへのニーズを理解できるようになります。ペルーのこの村では、人々はデング熱の危険がある中で暮らしていますが、湿度の高い雨季の間は非常に暑いため、蚊帳は使わないことが多いと研究者に語っています。

蚊による虫刺されの防止を支援

SCジョンソンの「ピラミッドの底辺 (BOP)」プログラムの使命は、世界で最も貧しい40億人の人々のニーズに合わせた、手頃な価格の製品を提供することによって、蚊が媒介する病気の予防を可能にすることです。BOPプログラムは、蚊が媒介する病気に関する知識を広め、ソリューションを構築するため、商業的手法と慈善的手法を組み合わせた戦略を打ち立てています。

戦略の実践にあたり、BOPチームは、インドネシアやミャンマー、ペルーなど、蚊が媒介する病気が蔓延している地域に住む家族と共に時間を過ごします。そして、これらの家族の暮らし方を学びつつ、病気を予防する行動を阻害しているアクセスやコスト、意識の問題を解決する方法を見い出します。

今日までに、BOPプログラムは蚊刺予防戦略の教育のためにデザインされた地元プログラムによって7か国170万人以上の人々にアプローチしてきました。当社は、世界中で病気の予防に尽力している1,000人以上の個人と150人以上の保険関連省庁の職員およびNGOと、密接に協力してきました。

「このような病気が家庭に及ぼす影響は計り知れません。しかしその脅威が存在し続けるかぎり、当社が何十年もかけて蓄積してきた蚊の研究と専門技術を活かし、援助の手を差しのべられることがありがたいと思います」

- SCジョンソン会長兼CEO、フィスク・ジョンソン

当社の戦略的原則

最大の影響をもたらす規模 - 複数の国々や地域に拡大するための明確な計画のあるイニシアチブを試行、実施する。

アクセスの提供 - SCジョンソンの新規サプライチェーンを活用し、さらに既存のサプライチェーンを強化することによって、蚊の被害を受けやすく、アプローチしにくい貧しいコミュニティの人々に対して、受益者が望む人命を救う手段を手頃な価格で提供します。

中核的能力の活用 - 蚊が媒介する病気の予防を可能にするソリューションを提供するために、家庭用虫よけ製品のトップメーカーという当社の専門知識を活用します。

戦略的パートナーシップの模索 - SCジョンソンが単独で実施できる以上の影響を生み出すため、政府、産業、非営利団体とのパートナーシップの力を活用します。

社会的企業モデルの構築 - 大規模な財政的実行可能性の達成を目指したイニシアチブを通して、社会的影響を生み出します。



当社がもたらした実績

170万人の人々が保健衛生に関する知識習得の機会を得ました。

250以上のコミュニティ保健衛生ワーカーを雇用し、蚊を防止するトレーニングを行いました。

蚊の防止対策に向けて535か所の新たなアクセス拠点を整備しました。

2018年以降に開設された50か所の医療拠点で、20万人以上が医療サービスを受けました。



SCジョンソンが開発した新たな空間用虫よけ製品は、最小限の操作で簡単に使用できるように設計されています。半閉鎖空間または閉鎖空間に吊るすことができ、自然に空気の流れを利用して有効成分であるTransfluthrinを発散。最長1か月間、蚊から身を守ります。

実効性のあるソリューションを提供

BOPプログラムによる当社の取り組みの一例を、インドネシアのスンバ島で見ることができます。当社は現地で、蚊が媒介する病気を低減させる空間用虫よけ剤の潜在的影響について調査を行うため、ビル&メリンダ・ゲイツ財団からの資金援助の下、ノートルダム大学およびアイジクマン分子生物学研究所と協力して作業を進めています。

研究者たちは、マラリアの伝染を減らすためにSCジョンソンが独自に開発した革新的な空間用虫よけ剤の効果についてテストを行いました。データの分析によって、初回の感染が約28パーセント低減されたほか、蚊の数が最大のサブセットでは全体的なマラリアの感染が約66パーセント削減されたことが判明しました。

世界保健機関（WHO）は2019年8月に、この研究から得られたマラリア感染対策の効果を示すデータ結果のレポートを出版しました。これは、蚊が媒介する病気への世界的な対策において、空間用虫よけ剤の活用により道を拓くものとなりました。

「当社は長年にわたってマラリアの予防に取り組んできました。空間用虫よけ剤が、マラリア対策の有効なツールであることがWHOのレポートで報告されましたが、これは私たちにとって朗報と言えるでしょう。そして、最終的にこの製品が公衆衛生チャンネルに導入され、多くの人の命を救うことを望んでいます」と、SCジョンソンの会長兼CEO、フィスク・ジョンソンは述べています。



インドネシアのサンバ島を訪れた会長兼CEOのフィスク・ジョンソン。

ヘルスケアへのアクセスを向上

もう一つは、ルワンダでの事例です。ルワンダでは、ヘルスケアサービスを受けるために3時間も歩かなければならないことは珍しくありません。多くの人にとって、マラリアへの感染は日常の心配事です。

このリスクへの対応を支援するため、SCジョンソンは2018年に、ルワンダ保健省およびルワンダ家庭健康協会とパートナーシップを構築しました。これによって国家的戦略を共同で開発し、ヘルスケアへのアクセスを向上させるため、ルワンダ全土で医療拠点の建設を進めています。これには、ルワンダの農村地帯に10か所の医療拠点を建設することが含まれています。

2019年には、パートナーシップを拡大し、ルワンダ全土でさらに40か所の医療拠点を整備する計画です。これにより、20万人以上の人々が、医療を受けやすくなり、マラリアについての知識を得られるようになります。このプログラムは、マラリア、HIV/AIDS、家族計画など公衆衛生問題への対応を支援することを継続的な目標としています。



会長兼CEOのフィスク・ジョンソンは、SCジョンソンの支援で整備されたルワンダの医療拠点を視察しました。

「私たちは、SCジョンソンのコミュニティの健康に対する投資と、マラリアなどの問題に関するベストプラクティス確立へ向けた継続的パートナーシップに感謝しています。新たな医療拠点が増えたことで、ルワンダは、農村部のアクセスしにくい地域にあるコミュニティの50%を対象に医療ニーズへの支援を強化できるようになり、遠隔地の家族が医療のために移動しなければならない距離が大幅に短縮されます」

- ルワンダ保健大臣、ダイアン・ガシユンバ博士



ソニアをご紹介します

ソニアは、ルワンダのニャンザ郡で自給自足の農業を営んでいます。

彼女の家族全員がマラリアにかかっています。地元の診療所を通して、ソニアは蚊が媒介する病気から家族を守る方法を学びました。それは、蚊帳の中で眠ったり、家の周りのやぶを刈ったり、溜まった水を捨てたり、蚊よけ剤を使用したりすることです。

しかし、これらの行動の大切さを分かってはいても、収入が不安定なため、選択が限られてしまいます。時には、食料を買い、子供の学費を支払うと手元にお金がほとんど残らないこともあります。

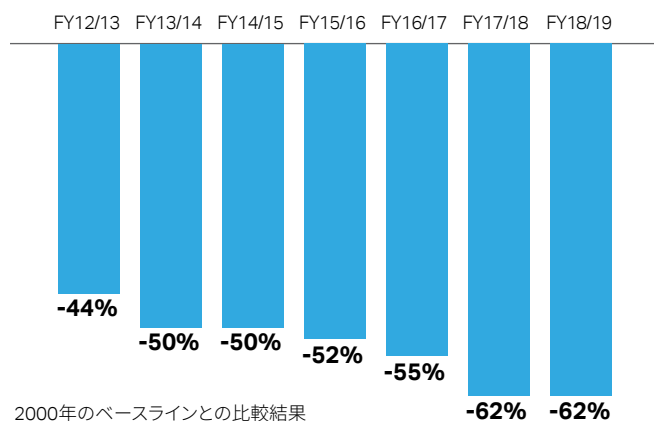
しかも仕事と家事に追われる中で、マラリア対策を行うことは容易なことではありません。政府職員が屋内用残留虫よけスプレーを家屋に噴霧するために村を訪問した際、彼女はこれを辞退しました。なぜなら、家具を覆ったり、スプレーを避けるべき物を取り出す時間がなかったからです。

当社の環境フットプリントの削減

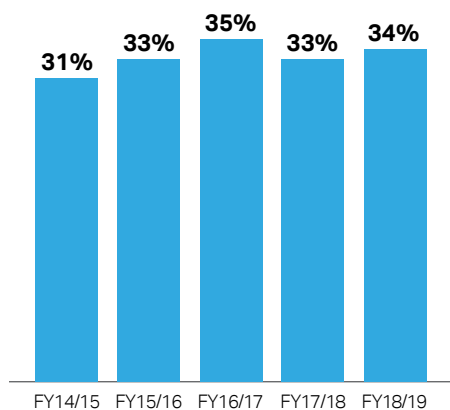
当社は、環境への責任を確実に果たしながら事業を行うことに最大限の努力をしています。

2018/19会計年度を通じて、SCジョンソンは、世界中の当社施設において再生可能エネルギーの使用を継続しました。当会計年度中に、当社は全世界のエネルギー消費量の34%を再生可能な資源から調達しました。これには、ミシガン州のベイシティ、ウィスコンシン州マウント・プレザント、ポーランドのゴジュフ、オランダのマイドレヒトにある当社の製造工場における、風力発電の使用が含まれています。

全世界における温室効果ガス削減



全世界における再生可能エネルギー



さらに、当社が排出する温室効果ガス (GHG) は、2000年のベースラインから62パーセント減少しています。

当社では、再生可能電力の利用を増加させる方策についても検討を続けています。2019年4月に当社は、ウィスコンシン州ラシーヌにある本社の電力供給に地熱エネルギーを利用する計画を発表しました。これにより、当社の環境フットプリントは大幅に削減されることになります。

進行中の他の持続可能プロジェクトと合わせて、施設全体における現在のエネルギー使用量を57~62パーセント削減できると予測しています。

SCジョンソン・インドネシアは2018年、高い環境基準を満たしたことにより、ジャカルタ首都特別州から最高の栄誉を授与されました。環境フットプリントの削減と、継続中のパートナーシップおよびプログラムにおいて当社が実施した数多くの取り組みが認められ、SCジョンソンは環境ケア・コミュニティアワードを受賞しました。例えば、プロガドゥンにある当社の製造工場では、有機廃棄物を堆肥にしています。敷地内には植栽ガーデンも設けられています。



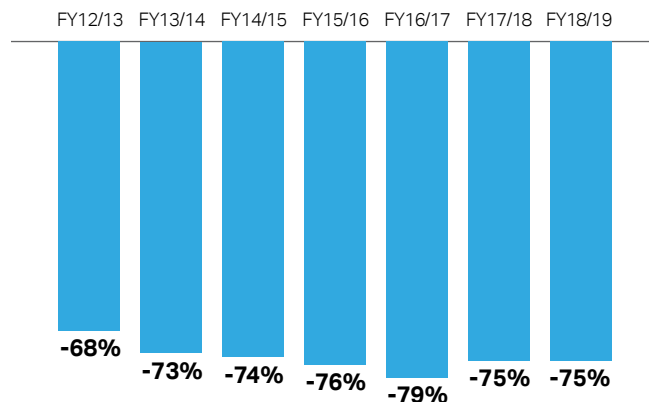
環境ケア・コミュニティアワードの受賞式。

環境フットプリントを削減する当社の継続的な取り組みは、2018年に、気候リーダーシップ・アワード「温室効果ガス (GHG) 管理の目標設定における卓越性」を受賞し、その功績が認められました。GHG管理において当社が気候リーダーシップ・アワードの栄誉に輝くのは、これで4度目となります。

廃棄物ゼロを目指して

環境フットプリントを削減する他の方策は、当社の施設から埋め立て処分場に搬入される廃棄物の量を制限することです。当社では、この課題に世界規模でさまざまな角度から取り組んでおり、材料と資源の責任ある使用、固形および液体廃棄物の処理変更による埋め立て処分場への搬入停止などを推進しています。2018/19会計年度末には、SCジョンソンの100パーセントの施設が、製造廃棄物の埋め立て処分場への搬入ゼロを達成しました。

全世界における廃棄物の削減



全世界の製造における大気排出物、排水、固形廃棄物の合計削減率。2000年のベースラインと比較した、対製造比率としての進捗を示す。

世界の森林を保護

森林破壊を食い止めることは、人類と地球にとっての至上命題です。当社は果敢に行動し、意識向上に努めています。

SCジョンソンは、何世代にもわたり森林保護に注力してきました。当社はコンサベーション・インターナショナル (CI) と提携し、これまで17年近くにわたって、環境に注力したプロジェクトを推進してきました。

CIとチームを組んで行った直近の事例としては、acre-for-acre マッチキャンペーンを通じて展開した、アマゾンの10,000エーカーに及ぶ熱帯雨林の保護活動が挙げられます。このキャンペーンで集められた寄付金によってスタートしたのが、ブラジルアマゾンにおける世界最大の熱帯雨林再生プロジェクトでした。

森林破壊に注目

今年、当社の会長兼CEO、フィスク・ジョンソンは、違法な森林伐採が投げかける問題の解決に注目してきました。SCジョンソンは、2020年までに、原料の100%をサステナビリティに基づく管理がなされた森林から調達することを約束しています。また当社は、持続可能なパーム油のための円卓会議 (RSPO) が認証したサステナブルなパーム油、パーム核圧搾、およびパーム油派生物を100パーセント使用しています。2025年までに、すべてのパーム油ベースの原料を100パーセントRSPO認証のものとし、分別流通、セグリゲーションまたはマスバランスによる物理的サプライチェーンから調達する予定です。

「人間の健康は、清潔な水、食品の安全、炭素補足、その他の利点を得るうえで、健全な森林に依存しています。政府、NGO、企業そして市民が、森林を保護するための闘いを続けることが重要です」と、フィスクは語ります。



会長兼CEOのフィスク・ジョンソンは、違法な森林伐採の現場を訪れました。

SCジョンソンは、コンサベーション・インターナショナルの最も栄誉ある賞「グローバル・コンサベーション・ヒーロー・アワード」を受賞しました。この賞は、環境分野において世の中に影響をもたらす取り組みや活動を行い、地球や人類の利益につながる大きな変化を生み出した個人や組織に贈られるものです。コンサベーション・インターナショナルは、SCジョンソンがアマゾンで行ってきた、数十年にも及ぶ地元コミュニティとのコラボレーションと持続可能性を追求する活動に、惜しめない賛辞を送りました。



会長兼CEOのフィスク・ジョンソンは、俳優のハリソン・フォード氏、ロック・イン・リオのCEOであるルイス・ジャスト氏と共に功績をたたえられました。

「アマゾン熱帯雨林の保護に対するSCジョンソンの大きな貢献、特に今年前半に行われたコンサベーション・インターナショナルとの連携による約4,000ヘクタールのアマゾン森林保護の支援といった最近の取り組みは、素晴らしいリーダーシップの証であり、アマゾン地域やそこに暮らす人々、さらには世界全体の健康と繁栄の実現に対する深い関係を示すものです」

－コンサベーション・インターナショナルのCEO、M・サンジャヤン

生活の改善に向けて

SCジョンソンは、私たちのコミュニティの改善に長期にわたって取り組むことを約束しています。なぜなら当社もコミュニティの一員だからです。

当社は、支援運動、教育への援助、製品の寄贈、寄付金の提供によって、私たちのコミュニティの向上を後押しします。SCジョンソンの支援提供は、次のカテゴリーを対象としています：コミュニティおよび経済開発、社会的サービス、健康およびウェルビーイング、教育、持続可能性および環境関連プログラム、米国製品の寄贈。

これまで80年以上にわたって、SCジョンソンは、税引き前利益の5パーセントを慈善事業に寄付してきました。過去1年間、当社は、STEM教育からコミュニティの保健衛生に至るまで、幅広いプロジェクトを通じて支援を継続しました。

STEM教育をサポート

ブラジルのフォルタレザにあるエスコラ・ジョンソンへの新たな支援は、その一例です。ここでは2018年、施設を100パーセント電化するため、SCジョンソンはソーラーパネルの設置をサポートしました。その結果、この地域初となるサステナブルな学校が誕生しました。

エスコラ・ジョンソンは、SCジョンソンとFIECの支援の下、セアラ州によって運営されている最先端の公立高校です。卒業生は、ブラジルの全国平均の2倍以上にあたる約47パーセントが大学に進学しています。またこの高校のキャンパスには、2010年からSCジョンソンが完全に資金援助を行っているフルサービスの歯科診療オフィ



スも備えられています。

当社はさらに、敷地内への温室の建設と、環境科学とビジネス教育を統合させた環境・教育プログラムの構築をサポートしました。生徒たちは、「ジュニアアチーブメント」とのパートナーシップの下、雨水貯留システムを使用してブラジルロウヤシを栽培し、育てた苗木をコミュニティに販売しています。

最後に、SCジョンソンが、STEMブラジルに対して確約した20万ドルの追加寄付によって、エスコラ・ジョンソンはもとより、他の地域の

2018年、伝染病の予防と自然保護に注力する非営利団体であるエコヘルズ連盟は、蚊が媒介する病気から消費者を守るSCジョンソンの支援活動を称えるための賞を授与しました。エコヘルズ連盟がとりわけ注目したのは、蚊が媒介する病気から人々を守る支援策に、教育をツールとして活用している取り組みです。また製品や財政援助など、リスクに曝されている家庭がジカウイルスを媒介する蚊を撃退できるよう、1,500万ドル分の寄付を行う約束を実行したことにも敬意を表しています。

学校においても、科学、技術、工学、数学分野の教育と、教師のトレーニングに対する支援が行われています。

わが街を豊かに

2018年にはまた、当社の本拠地であるウィスコンシン州ラシーンに、SCジョンソン・コミュニティ・アクアティックセンターがオープンしました。当社がすべての資金を提供して建設されたこの施設は、ラシーン郡に初めて登場したアクアティックセンターです。

このアクアティックセンターは、低額で利用できる様々な水泳教室や水上安全教育プログラムなどを提供しています。センターには、8コースを擁する競泳用とアクティビティ用の2つの水泳プールがあり、プール面積の合計は、約14,000平方フィートに及びます。



「私にとって水泳は、単なる楽しい時間ではありません。それは家族に関わることなのです。社会的関係を築くことであり、屋外の自由を手にすることなのです。『泳げる』ということでご得られる自由や自信は、幼い子供たちにとって本当に大切だと私は考えています。そのような感覚は、水泳にとどまらず、子供たちの人生のさまざまな局面に影響を及ぼす可能性があるからです」

- SCジョンソン会長兼CEO、フィスク・ジョンソン

透明性の確立をリード

信頼は透明性の上に築かれます。当社はこの信念を礎に、10年間にわたって業界をけん引してきました。

当社は、消費者が家族のために情報に基づく製品を選択できるよう、人々が情報にアクセスできることが大切だと信じています。だからこそ、当社は透明性プログラムを世界規模で展開し、ほぼすべての国で販売される製品を対象にしています。

業界基準が存在しない中で、多くの国々で、成分情報の開示に関する規制が一貫していないだけでなく、国によっては規制をまったく設けていない場合もあります。そこで当社は、世界中で販売されている当社製品の成分情報に、前例のないアクセスを提供することにより、企業として正しい行動を取ることに注力しています。

業界の姿勢に大きな一石

2019年に情報開示を世界規模に広げたことは、当社がこれまで尽力してきた透明性への取り組みの新たなステップにすぎません。実際、当社初の成分に関するウェブサイトを米国とカナダで立ち上げ、業界の姿勢に大きな一石を投じたのは、2009年のことです。

それ以来、当社は、製品ごとの香料リストや皮膚アレルゲン開示プログラムなどを実践し、大半の企業をはるかに凌駕する透明性第一の姿勢を貫いてきました。当社は、香料成分を製品処方量の0.01パーセントまで世界中に開示した、最初の大手消費財メーカーです。



「製品の成分に関する透明性を採り入れることがなかなか進まない企業もある中で、SCジョンソンは、この分野で常に先頭を走ってきました。私は、消費者に対する確固とした約束を実践してきたフィスク・ジョンソン氏を、成分透明性のグローバルリーダーとして称賛します」

～エンバイロメンタル・ワーキング・グループ会長、ケン・クック氏

当社の科学的データを共有

SCジョンソンは2018年、専門家による成分選択相互評価プログラムである、当社のGreenlist™に使用されている科学的基準を公開し、常識を覆す先進性を発揮しました。

当社が使用する成分は、この厳格なプログラムによってすべて評価されます。プログラムの中核をなすものは、クラス最高のデータを用いたハザードとリスクの双方を検討する4ステップの評価と、継続的な改善への取り組みです。

信頼の構築

透明性の実現には、社外の視点を取り入れることも含まれます。消費者との信頼を構築するうえで透明性が果たす現在と将来の役割を検証するため、当社は2018年、リサーチ会社のGlobeScanと提携し、企業、NGO、メディア、政府を代表する人々から数々の知見を収集しました。

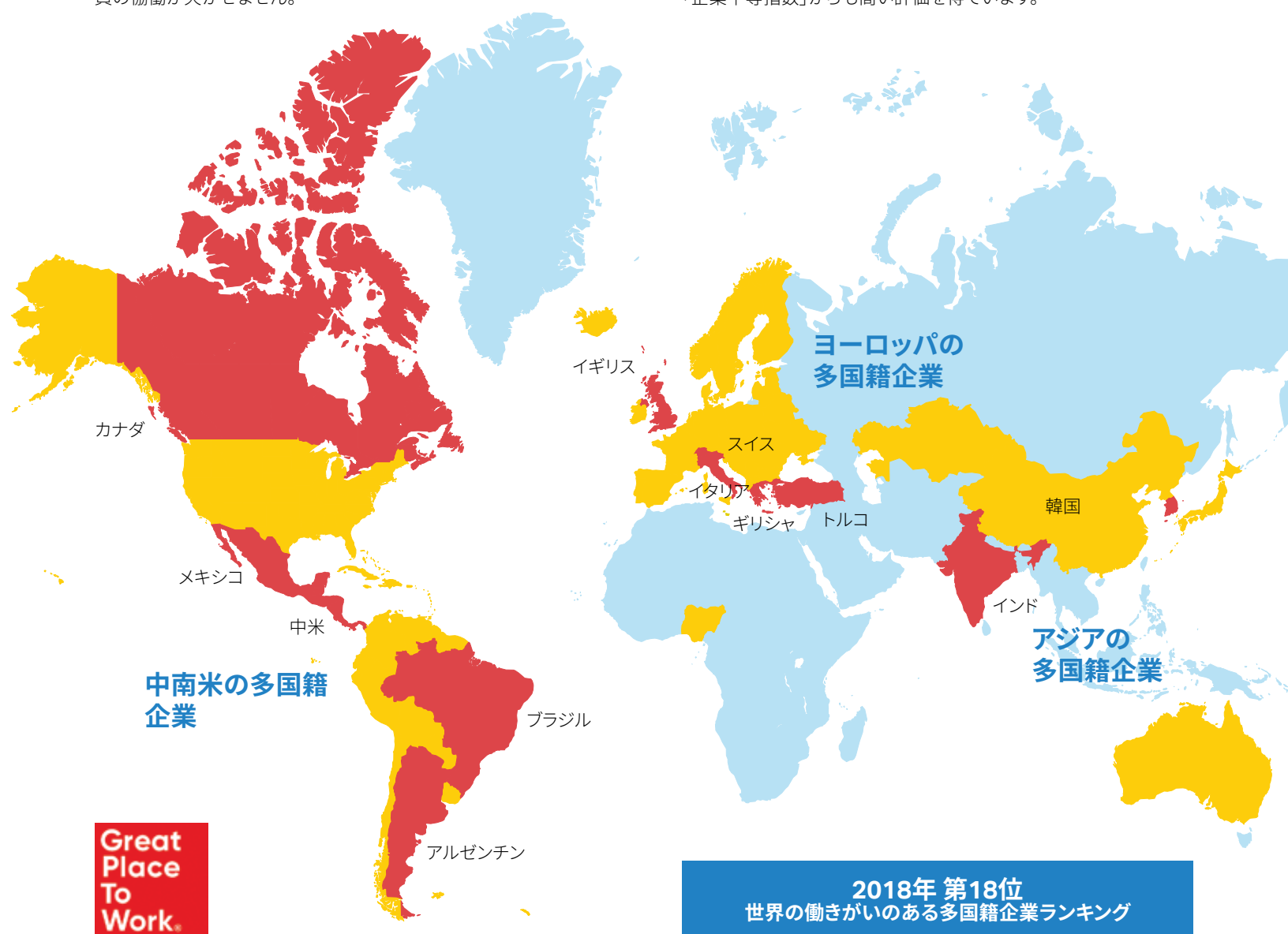
得られた知見については、当社が発行した『信頼の構築：なぜ透明性が方程式の一部でなければならないのか』というホワイトペーパーの中で紹介しています。このホワイトペーパーは、SCJohnson.comに掲載されています。当社は、成分透明性に関する業界の見方に、引き続き影響を与えていくことを望んでいます。

最高の職場

SCジョンソンは、当社の世界中の職場が、社員に刺激を与え、生き活きと仕事ができる環境となるよう、あらゆる努力を払っています。

過去130年以上にわたり目的を掲げて業界を率いてきた企業として、SCジョンソンは、私たちが生み出す文化は、私たちが作り出す製品と同様に大切であると信じています。成功は、一人ひとりが他者と手を携えたときに生まれ、より良い将来の創造には、私たち全員の協働が欠かせません。

SCジョンソンは、2010年以降、80回以上、Great Place to Work® 認定を受けています。2018/19会計年度には、16の「働きがいのある会社」アワードを受賞したほか、『ワーキング・マザー』誌および「企業平等指数」からも高い評価を得ています。



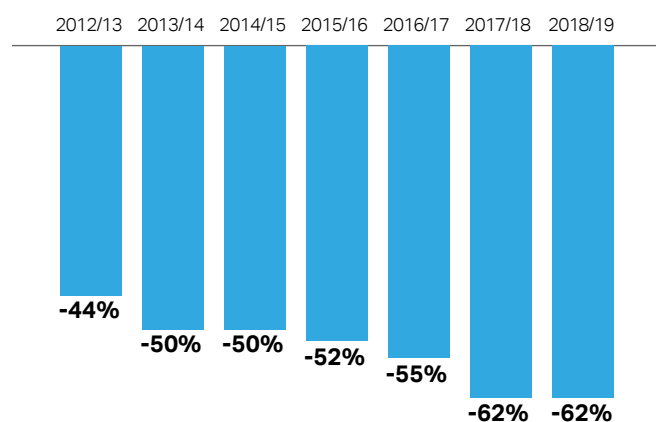
働きがいのある会社の赤い四角のロゴは、Great Place To Work® Institute社が所有する登録商標です。

■ 2018/19会計年度の認定 ■ 2010/11会計年度から2017/18会計年度

進捗を裏付ける数値

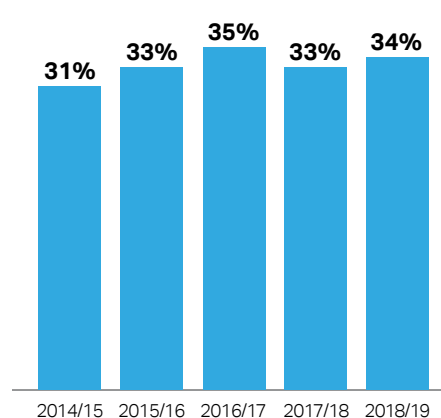
SCジョンソンは、長期にわたって環境フットプリントの削減に取り組んできました。以下に示すのは、2019年6月30日に終了した2018/19会計年度における、当社の持続可能性の進捗に関する主要な指標の計測数値です。本レポートは、主にSCジョンソンが長期にわたって展開してきたブランドと事業を対象としており、注釈がある場合を除き、最近買収した事業（SC Johnson Professional®、Method®、Ecover® およびBabyganics®）は対象にしていません。これらの事業に関するデータは、今後のレポートに取り入れられます。

全世界における 温室効果ガス削減



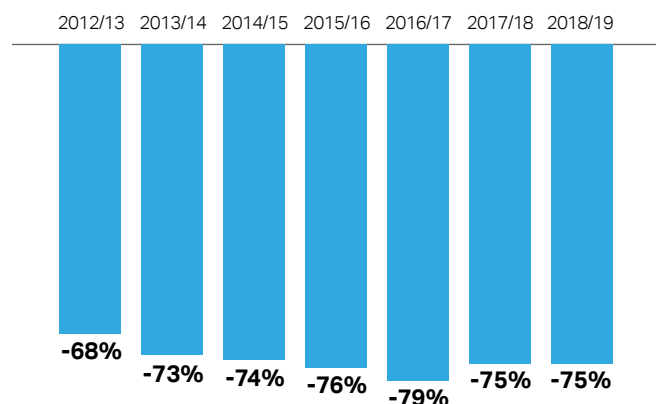
生産指標化された2000年のベースラインと比較した、製造産業の温室効果ガスの排出

全世界における 再生可能エネルギー



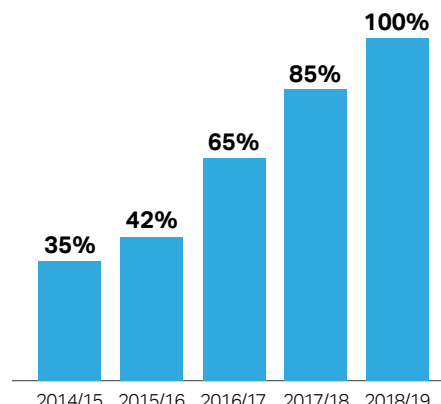
工場、事務所、倉庫を含めたすべての事業を対象とした、再生可能エネルギー源から調達した全世界におけるエネルギー使用比率

全世界における 廃棄物の削減



全世界の製造における大気排出物、排水、固形廃棄物の合計削減率。2000年のベースラインと比較した、対製造比率としての進捗を示す。

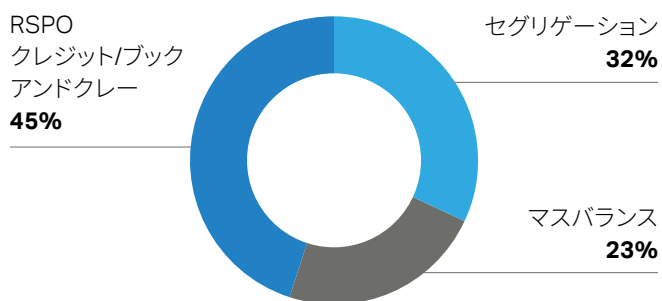
埋め立て処分場への 廃棄物搬入ゼロを達成



埋め立て処分場への製造廃棄物搬入ゼロを達成している工場の比率。



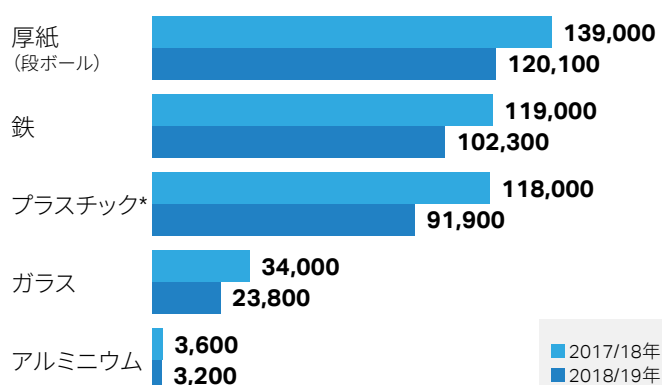
RSPO認証済み持続可能なパーム油の使用



2018/19年における100% RSPO認証済みパーム油の使用量：合計8,700トン

当社が2018/19年に使用したパーム油ベースの原料に対する「持続可能なパーム油のための円卓会議 (RSPO)」による認証レベル

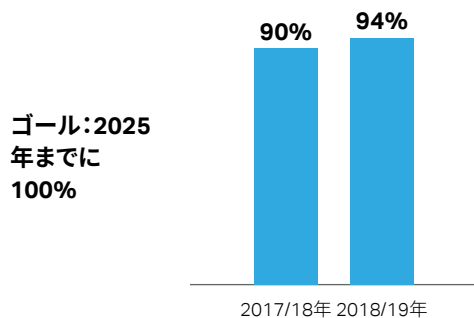
基本的パッケージ材料



基本的パッケージ材料の出荷トン数。

*基本的プラスチックパッケージのデータはSCジョンソンの全製品を反映しており、そこにはSC Johnson Professional®、Method®、Ecover® および Babyganics® が含まれます。

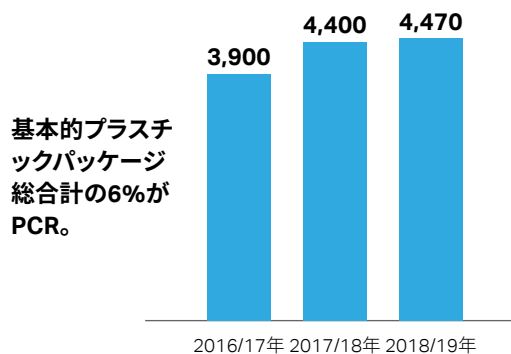
基本的プラスチックパッケージ：リサイクル可能、再利用可能、またはコンポスト可能*



リサイクル可能、再利用可能、またはコンポスト可能に設計されている基本的プラスチックパッケージの割合。

*パーセント数はSCジョンソンの全製品を反映しており、そこにはSC Johnson Professional®、Method®、Ecover® および Babyganics® が含まれます。

基本的プラスチックパッケージ：PCR使用*



基本的パッケージに全体に占める重量とパーセントで示した、当社全体のポストコンシューマ・リサイクル (PCR) プラスチックの使用状況。

*パーセント数はSCジョンソンの全製品を反映しており、そこにはSC Johnson Professional®、Method®、Ecover® および Babyganics® が含まれます。

企業概要

SCジョンソン社は、より良い世界を目指すファミリーカンパニーです。

会長兼CEOのフィスク・ジョンソンの指揮の下、当社は、イノベーション、高品質の製品、卓越した職場環境をはじめ、長期的な地球環境や、当社が事業を行っているコミュニティへの取り組みに、全力を尽くしています。

米国に拠点を構える当社は、洗剤をはじめ、押入れ・クローゼット、消臭・芳香剤、虫よけ、靴のお手入れ用の家庭用、業務用製品を扱う世界的なメーカーです。以下のロゴは、世界的によく知られている当社のいくつかの製品ブランドです。

当社は1886年に設立されたファミリーカンパニーです。

5世代にわたる家族経営企業です。

本社所在地は
米国ウィスコンシン州
ラシーン市です。

製品は世界中ほぼすべての国で販売されています。

全世界の社員数は
13,000名です。

品質、信頼のブランド



本レポートの共有：
[SCJohnson.com/report](https://www.scjohnson.com/report)

お問い合わせ：

facebook.com/SCJohnson

youtube.com/c/SCJohnsonAFC

twitter.com/scjohnson

linkedin.com/company/SCJohnson



ポストコンシューマ・リサイクル材料を50%含有するMohawk紙に印刷。Mohawk社によると、バージン繊維素材ではなくリサイクル材料を使用することにより、環境負荷を大幅に減らすことができます。例えば、本レポートのサイズと分量の印刷物の場合、純量で26,790ポンドの温室効果ガスの排出を防止でき、4,280万BTUのエネルギーを消費せず、2,384ポンドの固形廃棄物を生み出さずに済むことになります。

© 2019 S. C. JOHNSON & SON, INC.

詳細を見る：

[SCJohnson.com](https://www.scjohnson.com)

WhatsInsideSCJohnson.com